

# 新聞記事から見方考え方を深めていく公民学習

指定校2年次 小諸市立芦原中学校 山科 亮太

## I 本校の新聞活用（NIE）の現状

本校では、NIE指定校2年目ということで少しずつではあるが、新聞を取り入れた活動を行ってきている。

### ○「読み書きノート」の実践

昨年度より、信濃毎日新聞の斜面の書きとりを全校で行っている。毎週1回のペースで行っている。本校では、毎日の提出ノートとして、生活記録、漢字、数学、英語を行っているが、週末の課題として「読み書きノート」の実践を行っている。書く斜面の記事については、教師が生徒に与えている。全校で同じ記事の書きとりを行っている。また、「読み書きノート」を課題として与えられた週末は、毎日行われている漢字の書き取りは行っていない。生徒たちは、月曜日に担任に提出し担任がチェックを行っている。取り組みも1年間継続して続けられ、学校の教育活動に位置づいてきている。

### ○夏休みの取り組み

本校では、夏休みに夢中塾という活動を行っている。様々な講座を用意し、生徒や保護者の希望を取り学習するというものである。今年度は「新聞スクラップ作り」の講座を開設した。NIE推進協議会の方をお招きして講座を行った。約3時間の講座であったが、新聞の仕組みから丁寧に指導いただいた。普段新聞をあまり読んでいないと言っていた生徒たちも新聞に見入っている姿があった。



### 講座に参加しての生徒の感想

- ・新聞ができるまでの過程など、スクラップの作り方などを知れてよかったです。これから新聞を読む時は今日教わったことを意識して読みたいと思います。
- ・他の人の作品を見ると自分の考えや思いなどもしっかりまとめられていてすごいなあと思いました。今日新聞のことや新聞スクラップのことを聞いて新聞のことをたくさん知れてよかったです。

### ○NIEに関わるコーナー作り

図書館の先生と連携をとり、NIEコーナーを設置した。図書館前のスペースを利用し、生徒たちが、新聞を手にとる機会を増やしている。また、図書館の先生が工夫を凝らし、様々な展示をしている。例えば、各新聞社の「朝練、社体の問題」についての記事を掲示し、読み比べができるようになっている。

これらの活動を通し、生徒自身も新聞に次第に興味を持つようになり、NIEコーナーに展示されている新聞を手にとる姿や、授業時において新聞記事の話題を話してくれる生徒の姿も見られるようになった。

## II 実践のねらい（育てたい力）

公開授業を行うにあたり、社会科教科会では、新聞活用の良さについて話し合いを行った。新聞は資料活用および社会的事象に対する思考・判断・表現を行う上でとても良い教材であると考え。それは、生徒たちが直面すべき現実の社会的事象が取り上げられているため、それを読みとることは公民としての資質形成に大きく関わってくるからである。そして、新聞は現実社会への接点を提供してくれる教材であると考えた。これを踏まえて、今年度は政治分野での公開授業を行うこととなった。実際に生徒はどれほど政治について興味関心を持っているのかどうかを知るために、政治分野の学習を始める前に意識調査を行った。

◇政治に関する意識調査から（10月16日実施 3年3組29名回答）

政治的な出来事を話題にしますか。	毎日 0人	週に数回 4人	週に1回 6人	しない 13人	分からない 2人	その他 4人
政治についてどこで情報を得ますか。	新聞 6人	テレビ 26人	インターネット 8人	その他 3人	(複数回答可)	
あなたは政治にどの程度関心がありますか。	非常に 関心がある 1人	ある程度 関心がある 7人	あまり 関心がない 16人	関心がない 4人	分からない 1人	
選挙に参加しますか	はい 22名	いいえ 7名				

意識調査の中から、選挙に参加したいと答える生徒は多いが、政治への興味・関心が低い生徒が多数いることが分かった。また、情報収集はテレビを用いている生徒がほとんどである。政治への興味・関心が低いと答えた生徒は、政治を判断する知識がない、政治は自分たちの生活とかけ離れていると思っており、このままだと、選挙に参加したいという意欲はあっても、実際に選挙を行う際にどういう思いを持って投票をすれば良いか判断することができないのではないかと感じる。そういった生徒に対し、実際に投票に行く人々はどんな思いを持って候補者や政党を選んでいるのか。また、そういった人々の考えを受けて、政治は自分たちの生活に関わってくるものであり、生活をより良くするためには、私たちの意見を反映させなければならないという選挙の意義を踏まえ、5年後には有権者となる自分自身の政治参加について考えてほしい。

そこで、日本に実在する人々の声や実際に起こっている出来事を新聞記事から読み取ること、社会の様子を身近に感じるとともに政治は自分たちの生活に関わるものとしてとらえることができるのではないかと考える。現実味のある資料を通して、自分なりの意見形成ができたとき、生徒は社会科学習を通じて現実社会を理解することができた、現実社会と結びつくことができたという達成感を得ることができると考える。

## III 研究の概要

(i) 単元名 「現代の民主政治」

(ii) 単元設定の理由

本単元は、民主政治の基本となる、議会制民主主義や多数決の原理、選挙、政党や世論の役割について学ぶ。政治は、社会生活上の対立や争いを調整・解消し、自由と権利を保障するために行われるものであり、国民の積極的な政治参加が議会制民主主義を支えているため、政治に関心を持ち、積極的に関わっていかこうとする態度を養ったり、望ましい政治参加のあり方について自分の考えを表現したりすることを主なねらいとする。

3年3組は、意欲的に授業に取り組む姿勢が見られる。また、気になることや疑問を素直に述べることのできるクラスである。しかしながら、自分の考えを表現する場面となると主体的に表現することが苦手と感じている生徒がいる。2学期より公民的分野の学習を行っている。生徒の実態として、日頃から、ニュースや新聞に興味・関心を持っている生徒は少なく、政治に興味・関心を持っている生徒も少ない。政治への興味・関心がないものの、実際に政治参加（選挙）しようという意識は高い。しかし、選挙をしたところで社会は何も変わらないだろう、政治は自分たちの生活と結びついている感じがしないという理由で政治参加に消極的な生徒もいる。

このような生徒たちに、政治が自分たちの生活と関係し、主権者として政治に参加することがいかに大切であるか気付かせたい。そのために、新聞を利用しながら生活に身近な話題や資料を多く取り上げ、その中で社会的事象を考えたり、そこに登場してくる人物の思いに寄り添うことを通して、より良い社会を築いていくために自分には何ができるのかを考えまとめたり、表現したりできると考えた。このように、現代の政治に関する諸問題を自分の問題としてとらえ、より良い社会をつくるためにどうしたらよいかを考えることで、主権者として政治に参加することの意義を考えるという社会科の目標を達成できると思い、本単元を設定した。

### (iii) 単元の目標

#### (1) 主目標

国民の積極的な政治参加が議会制民主主義を支えていることに気付き、選挙の仕組みやその意義と課題、政党や世論の役割などについて考えることを通して、政治参加について自分の考えをまとめることができる。

#### (2) 具体目標

##### A 社会的な事象への関心・意欲・態度

ア 身近な生活と政治に関わりを持ち、現代の日本の政治の課題について意欲的に追究しようとする。

##### B 社会的な思考・判断・表現

ア 政治参加のあり方について自分の考えを表現する。

##### C 資料活用の技能

ア 政党や選挙に関する新聞記事を、課題にそって読みとることが出来る。

##### D 社会的な事象についての知識・理解

ア 政治や議会制民主主義の意義や多数決の原理の基本的な考え方を理解している。

イ 政党のはたらきや役割について、具体的な事例をもとに理解している。

ウ 日本の選挙制度について理解している。

エ 多様な政治参加の方法について理解している。

### (iv) 単元の流れ

全5時間扱い 本時は第4時

○学習展開 ◆評価	◇指導	時間
○今の日本の政治について思っていること、知っていることを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ルールを決定するとき、どんな方法で決定するのがよいだろうか。</div> ○「1人で決める」「代表者が決める」「みんな	◇意識調査の中であげられた内容を話題に出しながら関心を高める。  ◇第1章3節の「決定・採決の仕方」	1

<p>なで決める」の3つの観点でメリット、デメリットを考える。 ◆A Dア</p>	<p>の学習を振り返り、「合意」の重要性、「多数決の原理」を確認する。</p>	
<p>政党はなぜ必要なのだろうか。 ○政党の活動内容を調べる。 ○模擬投票を通して、政党のはたらきや役割について考える。 ◆C Dイ</p>	<p>◇今年の参院選から選挙公約の新聞記事を見て、それぞれの政党の目指している日本の姿をつかめるようにする。</p>	1
<p>あなたは将来選挙に行きますか。 ○現在と帝国議会開設当初の投票風景から違いを考える。 ○選挙制度について理解する。 ○資料をもとに選挙制度の課題について考える。 ◆C Dウ</p>	<p>◇歴史分野での学習をもとに考えられるようにする。 ◇国民が投票しやすいように行っている制度についても触れる。</p>	1
<p>本時の主眼 選挙制度について学び投票率が低い現状を目の当たりにした生徒が、新聞記事を読み様々な立場の有権者がどんな思いで投票しようとしているのかを考えることを通して、選挙の意義と課題をふまえ、政治参加について自分の考えを表現することができる。</p> <p>○前時を振り返り、学習問題を確認する。 あなたは将来選挙に行きますか。 ○事前に行った意識調査において選挙に行くか行かないかその理由を発表する。</p> <p>選挙をする人々はどんな思いで投票しようとしているのだろう。</p> <p>○新聞を読み、実際に投票する人はどんな思いで投票しようとしているかを学習カードにまとめ、発表する。 *以下は記事に載っている人々の投票への思い。</p> <p>◇登場人物の確認を全体で行い、その後、人々の選挙への思いを新聞記事から抜き出していくようにする。 ◇記事を読む際に登場人物にマークをさせていく。</p>		
<p>思い</p>		
<p>東京都板橋区 古館志門さん(33) あゆみさん(32)</p>	<p>子どものことを考えてくれる政党がどこか知りたい。 子どもたちが成長するとき人間らしい生活ができる世の中であってほしい。→投票する際に「子育て」を重視している。</p>	1 公開 授業
<p>埼玉県さいたま市 黒田千代吉さん(88)</p>	<p>自身が戦争の悲惨さを知っている。そんな体験を若い世代に2度と繰り返してほしくない。平和の意味を考えて憲法への姿勢を見極めて投票したい。→投票する際に「憲法改正」を重視している。</p>	
<p>福島県福島市 叶谷守久さん(73)</p>	<p>自身が震災の被災者。 原子力政策を進める政治家に復興を任せるわけにはいかない。 →投票する際に「脱原発」を重視している。</p>	
<p>青森県中泊町 敦賀勝正さん(73)</p>	<p>第1次産業で働く者は生活が厳しい。補助制度を考えてほしい。 →投票する際に「自分の仕事」を重視している。</p>	

千葉県船橋市 パート女性（51）	経済的に苦しい生活。格差を広げないような政策を実現してほしい。 →投票する際に「経済政策」を重視している。
山梨県甲府市 雨宮登喜子さん（73）	年金だけでは生活が厳しい。元気な高齢者に働く場を与えてほしい。 →投票する際に「高齢社会に向けた政策」を重視している。
群馬県太田市 男性（25）	アルバイトをやめて現在求職中であり、正規雇用の拡大をしてほしい。 →投票する際に「雇用」を重視している。

●朝日新聞（2013年7月21日朝刊）

候補者（左下）の「最後の訴え」に足を止める有権者—20日午後5時1分、仙台市、日吉健吾撮影  
駅前での街頭演説に耳を傾ける有権者ら—20日午後、さいたま市浦和区、越田晋吾撮影



# 声を届けよう

2013 参院選

## 除染や賠償 道筋は ■ 憲法見極める

参院選の選挙戦最終日の20日、各党の党首や候補者が最後の訴えを繰り広げた。景気回復、原発政策、憲法、年金……。様々な争点があるなかで、有権者は何を基準に選ぶのか。21日の投票前日、各地で1票に託す思いを聞いた。

20日午後6時、東京・新宿駅西口。東京船橋区国会議員古館浩志さん(38)と妻あゆみさん(32)が、2人の子を連れて東京選挙区の候補者の演説を聴いていた。「子どものことを考えてくれる政策を知りたい」

共働きで、子どもたちを保育所に預ける。子育て政策は切実な問題だ。公立の保育所に通う長男(3)と、都が独自基準で設けた認可外の施設に通う9カ月の長女(1)。

投票日前に、各地の有権者はそれぞれの1票に思いを託そうとしている。

さいたま市の黒田千代吉さん(68)は「国のあり方を映す憲法への姿勢を見極めて票を投じた」。第2次世界大戦末期に徴兵され、中国東部に送られた経験を持つ。飢えに苦しむ、死んだ戦友の靴を争うようにしてむきほつた。そんな体験を若い世代に二度と繰り返してほしくない。

今月、都内で開かれた催しでは、「戦後68年間続いた平和の意味を考えないといけない」と訴えた。

東京電力福島第一原発の事故で、福島県浪江町から福島市の仮設住宅に避難している町会守久さん(73)は「脱原発の姿勢」で投票先を決める。津波で自宅と妻(当時71)を奪われたのに、原発事故で避難を強いられ、1カ月以上遺体を捜すのに1年かかると訴えた。「原子力政策を復興の政治家に、被災地の復興や国民の生活を任せるわけじゃないから」

青森県中泊町で代々タイ

## 燃油高、補助を ■ 正規雇用増やして

伊カ釣り漁は経費の4割が燃油のため、円安となった今、採算は厳しい。今年5月には東京まで出向き、燃油価格高騰の対策を求めるデモにも参加したが、まるで効果はなかった。「第1次産業に対する補助制度がほしい」

千葉県船橋市のパート女性(31)は、専門学校生の長女(18)と高校1年の次女(15)がいる母子家庭。経済的に苦しいが、子ども手当のようなほらまき政策には反対だ。「格差をこれ以上広げないような政策を実現してくれる候補者を選びたい」

甲府市内の団地に住む雨宮登喜子さん(73)は年々暮らし、4歳上の夫は定年。勤めていたネット製品の会社が倒産し、70歳までアルバイトをせざるを得なかった。子どもを育てあげ、善悪は少ない。夫とは「年金が減った、生活保護だね」と話している。何もかもを国や福祉に頼らうとは思っていないが、「元気な高齢者に働く場を提供してくれる候補者や政党に投票したい」。

就職が決まらないまま、昨春太田大学を卒業した群馬県太田市の男性(26)は、6月にアルバイトを辞めて求職中だ。円安で好調な地方の自動車産業で働きたいが、求人契約社員や派遣社員ばかり。アベノミクスは「大企業など一部のためだけにしかなくていいから」と思う。「正規雇用の拡大につながる政策があるかどうか」で1票を投じるつもりだ。

◇表が完成したところで、「登場する人々の思いに共通することは何だろう。」と問う。

◇若い世代になればなるほど投票率が低くなっている点に気づくようにする。

○小諸市の世代別投票率の表を見て気づいたことを発表する。

○本時の学習問題に対して自分の考えをまとめ、発表する。	評価：選挙の意義と課題をふまえ、政治参加について自分の考えを表現することができる。
選挙以外の様々な政治参加の方法を考えよう。 ○資料を見ながら、選挙以外に政治参加の方法があるか考え発表する。 ○自分が出来る政治参加について考える。 ◆B Dエ	◇世論を取り上げ、世論を形成する上でマスコミが大きな役割を果たしていることに気付けるようにする。 1

#### IV 研究のまとめ（公開授業より）

##### 【終末における生徒の考え】

○事前の意識調査で選挙に行かないと答えた生徒。

A生 授業を受ける前は行く気がなかったけど、今の参加率を聞いてこれは行った方がいいなど思ったし、参加する人にはちゃんとした考えがあるんだからそれに協力しなきゃだめだなど思ったから。

考察：小諸市の投票率の資料から、選挙の課題を自分の問題としてとらえることができたのではないと思う。また、新聞記事より、投票には人々の思いが込められているということが分かり、自分自身も関わっていかなくてはならないという考えを持つことができた。

Y生 今回の授業で、小諸市の投票率を知ってびっくりした。でも、私は、私自身が国や市に求めることがあまりないから、今の状態のままなら選挙に行かないと思います。もし、この先、どうしても国に伝えたい思いが出てきたら一票の重さが初めて分かると思います。そしたら、一票しかない選挙権を持って選挙に行きたいと思います。

考察：新聞記事を通して、人々の思いを受けて、現在の自分を照らし合わせながら考えたことで、選挙に行かないと判断したのであろう。しかし、選挙の意義を理解することができたので、将来的に必要性を感じたときに選挙に行くという考えを持つことができた。

○事前調査で選挙に行くと言った生徒が、授業を通して考えを深めることができた生徒。

○生 選挙は大人っぽいから。自分にも関わることだから。(意識調査より)

↓

私なら今はまだ子どもだし、不自由なく暮らしているけれど大人になった時に、自分にも仕事などやるべきことが増えるので、より生活しやすい環境にして生きていきたいし、もし、自分にも子どもが産まれたら、その子どもにのびのびと成長してもらいたいので選挙に行って自分ひとりだけの力でも自分の思いを伝えて、政治に積極的に参加していきたいと思いました。

考察：新聞記事の「子どものことを重視する」という意見を持った人の思いに強く共感したのではないかと考える。その考えを参考に自分自身の問題として考えることができた。

Y生 義務だから。(意識調査より)



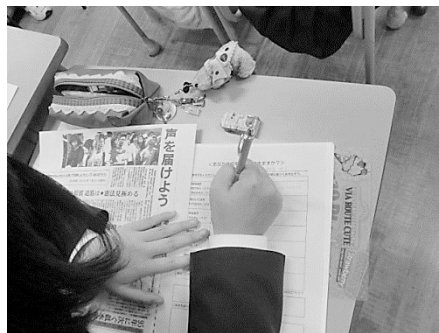
今日の授業でも分かったけど、やっぱり一人一人ちがう意見を持っていて、それぞれが訴えていた。私も今の自分や国にとって何が大事でどういう政策がほしいのか、キチンと考えて選挙に行きたいと思いました。一人の意見じゃ何も変わらないと思ってたけど、一人の意見が大事なんだと思いました。

考察：国民に与えられている権利だからというやや受け身ととらえられる考え方であったが、新聞記事で人々の思いにふれたことで、自分の意見を伝えることの大切さに気づくことができた。

生徒は、選挙をしようとしている人々の思いから、自分自身の政治参加の見方を広げ考えを深めることができた。

#### 【公開授業後の研究会より】

- ・新聞を読む際に人名をマークさせたことで7組の人々の思いを生徒は、読み取りやすくなった。
- ・「投票率が低い」という現実に対して、あたえた資料は、投票に行かない人の理由ではなく、投票に行く人に焦点を当てたのは良かった。
- ・他の人がどう考えているのかを知るために、広い視野を持った新聞から情報を得ることで現在の状況をより実感できたのではないかと思う。
- ・読んで書くという作業を通して、内容を整理でき、「その上で自分は・・・」と考えることでしやすくなった。様々な立場の人の思いにふれることで、選挙は他人事ではないと生徒が考えることができた。
- ・選挙に行くかどうか自分の意見を最初に持つてから、資料を読んでまた考えることは、記述内容の違いから自己の成長を実感できる場となった。
- ・資料の読み取りが終わっていない生徒が多かった。文量の精選も必要であるが、生徒の読みとる力を付けていくことも大切である。
- ・出た意見を全体でもう少し共有したり、関連する意見を出し合ったりすればもっと生徒の考えが深まるのかと思った。
- ・読みとり方の工夫が必要。7組の人々、全員について読みとるよりも、読んでみて自分が気になる人について掘り下げていくなどすると考えが深まっていくのではないかと思った。
- ・意思決定をしていくためには事実認識と価値観が必要。今回の資料の場合、立場の違う人が7組登場したが、自分にとって大事だと感じ思いを寄せて深く掘り下げていくことが大切である。



## V 研究のまとめ（政治分野の学習を終えて）

公開授業の時だけでなく、政治を身近なものとしてとらえられるよう、授業日当日の新聞や授業に関連のある新聞記事を活用してきた。そして、政治分野の学習を終えたとき、再び意識調査を行った。

◇政治分野の学習を終えて行った意識調査から（12月9日実施 3年3組29名回答）

政治的な出来事を話題にしますか。	毎日 2人	週に数回 7人	週に1回 6人	しない 11人	分からない 0人	その他 3人
政治についてどこで情報を得ますか。 (複数回答可)	新聞 12人	テレビ 28人	インターネット 8人	その他 1人		
あなたは政治にどの程度関心がありますか。	非常に 関心がある 1人	ある程度 関心がある 20人	あまり 関心がない 6人	関心がない 1人	分からない 1人	
選挙に参加しますか	はい 25名	いいえ 4名				

授業の中で積極的に新聞記事を用いることを通して、新聞を用いて情報を得ようとする生徒が増えた。少しではあるが、政治的な出来事を話題として取り上げる生徒も増えてきている。また、生徒自ら教師に政治の話題を話しかけてくることが多くなった。その話の中で「〇〇の法律ができると私たちの生活は・・・」といった自分たちの生活と結びつけて話かけてくる生徒も出てきている。政治は私たちの生活と関わりがあり、身近なものとして感じている生徒が増えたように感じる。

政治分野の学習を終えて、生徒の感想には、「今まで政治と言うとあいまいな知識しかなくて興味がなかったが政治分野の学習を終えて政治についてたくさん知ることができた。テレビや新聞の内容が少しわかるようになってうれしかった。」「政治の授業をする前は政治に関して興味がなかったり、あまり知らなかったけど、政治の勉強をしてきて選挙の大切さや自分たちの未来に関わることなんだと思った。」「もう少し、自分からテレビや新聞で政治の事について知っていきたいと思いました。」といった意見があった。新聞を通して現代社会で起きている出来事にふれることで、自分たちの生活と関わりがあるものにとらえ、政治に興味関心を持つことができた生徒が多くなった。

## VI 今後の課題

### ①新聞になれる。

新聞の読み方を継続して取り組む必要がある。特に、初めに見出しを読み、次に第一段落を読むなど読み取り方も訓練していくなど、見通しを持っていくことが大切である。新聞の読み方になれていると、そこから社会的事象を考え、深めていく活動も出来るようになる。

### ②新聞を選ぶ。

新聞によって論調がずいぶん異なったり、人々の意見にも様々あったりするので資料選びも重要になってくる。また、生徒の現在の読み取る力を把握したうえで、適切な資料を分量や内容を含めて精選する必要がある。